

本学における新型コロナウイルス感染症の 発生に伴う栄養士学外実習の対応について

古賀 克彦・桑原 倫子・桑原 真美・守山 優美
黒田 真衣・内山 美保・太田 美代

About correspondence of dietitian off-campus training
with the outbreak of COVID-19 infection

Katsuhiko KOGA・Rinko KUWAHARA・Mami KUWAHARA・Yumi MORIYAMA
Mai KURODA・Miho UCHIYAMA・Miyoko OTA

1. 背景と目的

1.1. 新型コロナウイルス感染症の発生に伴う 学外実習の対応について

長崎女子短期大学生活創造学科栄養士コースでは栄養士免許取得のために例年2年次の7月に学外実習Ⅰを、11月に学外実習Ⅱをそれぞれ5日間実施している。しかし令和2年度は新型コロナウイルス感染症の流行のため、学外実習先である高齢者福祉施設や病院において、例年通りに栄養士学外実習が実施できない状況に陥った。

この新型コロナウイルス感染症の発生により医療や福祉の現場で学外実習が出来ない状況に対し、文部科学省と厚生労働省から連名で『新型コロナウイルス感染症の発生に伴う医療関係職種等の各学校、養成所及び養成施設等の対応について（令和2年2月28日付）』¹⁾の事務連絡がなされた。この連絡の中の『学校養成所等運営にかかる取り扱い』の項において、『学校養成所等にあつては、新型コロナウイルス感染症の影響により実習施設の受け入れの中止等により、実習施設の変更が必要となることが想定される。実習施設を変更する際には、あらかじめ当該変更に係る承認を受けることとされているが、今般の新型コロナウイルス感染症を受け迅速な対応が必要であることに鑑み、承認申請に係る時期については弾力的に取り扱って差し支えないこと。実習施設の変更を検討した

にもかかわらず、実習施設の確保が困難である場合には、年度をまたいで実習を行って差し支えないこと。なお、これらの方法によってもなお実習施設等の代替が困難である場合、実状を踏まえ実習に代えて演習又は学内実習等を実施することにより、必要な知識及び技能を修得することとして差し支えないこと。』との記載があり、本学も『実習施設の変更を検討したにもかかわらず、実習施設の確保が困難である場合』に該当したため、学外実習Ⅰは学内の実習に変更し、学外実習Ⅱは依頼していた施設で実習が出来ない場合は、実習先を変更し学外実習を実施した。このように学外実習を学内実習に置き換えて実施するのは初めての経験であり、また令和3年度以降もこの状況が続くと予想されたため、学内外での実習内容を総括し改善するため学外実習Ⅰ、及び学外実習Ⅱの終了後に学生を対象にアンケート調査を行い、学内で実施した学外実習Ⅰ、および従来通り学外施設で実施した学外実習Ⅱについて評価を行ったので以下に報告する。

1.2. 令和2年度学外実習の概要について

新型コロナウイルス感染症の流行と4月の緊急事態宣言発表に伴い各施設から実習中止のお願いがあったが、5月上旬に長崎市老人福祉施設協議会から一括して学外実習生の受け入れ停止の連絡

があったため、例年7月前半に実施していた学外実習Ⅰは学外での実習を全て中止し、学内での実習に置き換えて夏季休暇期間中の9月前半に実施（台風のため休講になった1日分は10月に実施）した。また、11月前半に病院、高齢者福祉施設、保育園・認定こども園で実施していた学外実習Ⅱは、多くの病院や高齢者福祉施設が実習生の受け入れを停止したため、実習先を保育園・認定こども園主体に変更し実施した。以下にその詳細を示す。

1.2.1. 学外実習Ⅰ

○履修者数

本学生生活創造学科栄養士コース2年生28名及び科目履修生1名、合計29名が履修した。

○実習期間

日程 令和2年9月8日(火)～9月11日(金)、
10月3日(土)

【台風10号のため9月7日(月)は休講】

時間 午前9時～午後6時（昼休み1時間）

○実習場所

本学1号館1階調理室、大量調理実習室、試食室及び、本学2号館2階221教室、第1情報処理演習室で実施した。なお当初の計画では保育園・認定こども園（8施設8名）、高齢者福祉施設（10施設19名）、救護施設（1施設2名）の予定であった。

○実習内容

本学生生活創造学科栄養士コース教員が学生を4つのグループに分け、下記の内容について実習を実施した。実習の時間割詳細を表1に示す

- ・給食（昼食）提供（大量調理）
- ・間食の調理提供（大量調理）
- ・提供した給食及び間食に関するアンケート調査の実施および集計（嗜好調査）
- ・集団栄養指導の実施（指導時間20分）（栄養指導）
- ・学外実習総合演習で作成した献立の修正（献立

作成）

1.2.1. 学外実習Ⅱ

○履修者数

本学生生活創造学科栄養士コース2年生28名及び科目履修生1名、合計29名が履修した。

○実習期間

日程 令和2年11月9日(月)～11月13日(金)

【一部学生は11月16(月)～11月20(金)】

時間 午前9時～午後6時

（実習先により異なる）

○実習場所

保育園・認定こども園（17施設17名）、病院（3施設6名）、高齢者福祉施設（1施設2名）、救護施設（1施設2名）、事業所（1施設2名）で実施した。なお当初の計画では保育園・認定こども園（9施設9名）、病院（6施設12名）高齢者福祉施設（3施設6名）、救護施設（1施設2名）の予定であった。

○実習内容

各施設において、管理栄養士・栄養士等の指導により給食の運営に関する実習を実施した。

○その他

なお、新型コロナウイルス感染症対策として、2週間前から検温を行い、県外を含め感染の恐れのある場所への移動を禁止し、マスク着用や手洗い等感染予防に十分に配慮し実習を行った。

2. 方 法

2.1. アンケート調査の方法

○調査対象

本アンケートは学外実習Ⅰ及び学外実習Ⅱを履修している長崎女子短期大学栄養士コース2年生28名及び科目履修生1名、計29名を対象に無記名のアンケート調査を実施した。

表1 令和2年度学外実習Ⅰ タイムスケジュール

9/8 火	1班	朝礼	集団栄養指導(媒体作成・練習)					星食・休憩	献立作成(PCで修正)【指導】					間食・試食	集団栄養指導 (媒体作成・練習)			反省会・提出物作成				
	2班	朝礼	給食提供					星食・休憩					昼食(間食・試食)			集団栄養指導 (媒体作成・練習)			反省会・提出物作成			
	3班	朝礼											献立作成(PCで修正)【指導】					間食・試食	集団栄養指導 (媒体作成・練習)			反省会・提出物作成
	4班	朝礼											星食・休憩					間食提供			反省会・提出物作成	
9/9 水	1班	朝礼	集団栄養指導 (媒体作成・練習)					星食・休憩	間食提供					15:00	15:30	16:00	16:30	17:00	17:30			
	2班	朝礼	献立作成(PCで修正)【指導】					星食・休憩	集団栄養指導 (媒体作成・練習)					献立修正	間食・試食	集団栄養指導 (媒体作成・練習)			反省会・提出物作成			
	3班	朝礼	給食提供					星食・休憩					星食(間食・試食)			集団栄養指導 (媒体作成・練習)			反省会・提出物作成			
	4班	朝礼											献立作成(PCで修正)【指導】					星食・休憩	献立修正			
9/10 木	1班	朝礼	集団栄養指導 (媒体作成・練習)					星食・休憩	献立修正					15:00	15:30	16:00	16:30	17:00	17:30			
	2班	朝礼	集団栄養指導 (媒体作成・練習)					星食・休憩	献立修正					集団栄養指導 (媒体作成・練習)			反省会・提出物作成					
	3班	朝礼	集団栄養指導 (媒体作成・練習)					星食	献立修正					間食・試食	集団栄養指導 (媒体作成・練習)			反省会・提出物作成				
	4班	朝礼	給食提供					星食					昼食(間食・試食)			集団栄養指導 (媒体作成・練習)			反省会・提出物作成			
9/11 金	1班	朝礼											給食提供					星食(間食・試食)				
9/11 金	2班	朝礼	集団栄養指導 (媒体作成・練習)					星食・休憩	集団栄養指導 (媒体作成・練習)					間食・試食	集団栄養指導 (媒体作成・練習)			反省会・提出物作成				
	3班	朝礼	献立作成【指導】					星食・休憩	献立修正					間食・試食	集団栄養指導 (媒体作成・練習)			反省会・提出物作成				
	4班	朝礼	献立作成【指導】					星食・休憩	献立修正					間食提供			反省会・提出物作成					
	10/3 土	1班	朝礼	発表準備					星食・休憩	発表準備					15:00	15:30	16:00	16:30	17:00	17:30		
10/3 土	2班	朝礼	発表準備					星食・休憩	発表準備					15:00	15:30	16:00	16:30	17:00	17:30			
	3班	朝礼	発表準備					星食・休憩	発表準備					15:00	15:30	16:00	16:30	17:00	17:30			
	4班	朝礼	発表準備					星食・休憩	発表準備					15:00	15:30	16:00	16:30	17:00	17:30			

○調査時期

学外実習Ⅰに関するアンケート調査は令和2年10月3日の学外実習Ⅰ終了後に、また学外実習Ⅱに関するアンケートは学外実習Ⅱ終了後の令和2年11月24日に実施した学外実習総合演習の時間にそれぞれ実施した。

○回答率

学外実習Ⅰ・Ⅱの両アンケートとも29名の履修者を対象に調査を行い、29名より回答があった。回答率は共に100%であった。

○調査内容

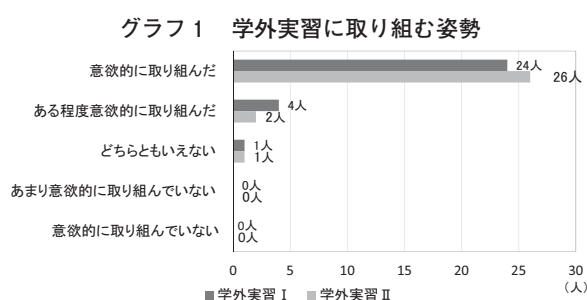
学外実習Ⅰに関するアンケート調査では、学外実習に意欲的に取り組んだか、難易度は適切だったか、予習・復習時間、実習は意義があるものだったか、実施時期、実習内容の満足度（内容別）、実習の感想（自由記述）について調査を行った。

学外実習Ⅱに関するアンケートでは、学外実習に意欲的に取り組んだか、難易度は適切だったか、予習・復習時間、実習は意義があるものだったか、実習先の指導内容、身に付けておくべきこと、栄養士のイメージの変化、実習の感想（自由記述）について調査を行った。

3. 結 果

3.1. 学外実習に取り組む姿勢

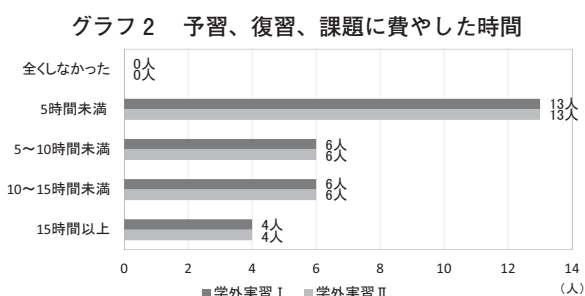
各学外実習に関して意欲的に取り組んだかと尋ねたところ、学外実習Ⅰでは24人（82.8%）、学外実習Ⅱでは26名（89.7%）が『意欲的に取り組んだ』と回答した（グラフ1）。『ある程度意欲的に取り組んだ』と回答した学生を含めると、共にほぼ全ての学生が意欲的に取り組んだと回答した。



このような結果になった理由としては、1年次から普段の授業において各教員が学生に対し学外実習の重要性を説明してきたことに加え、学外実習Ⅰに関しては新型コロナウイルス感染症の流行の影響で学内での実習に至るまでの経緯を学外実習総合演習の時間に説明してきたこと、学外実習Ⅱに関しては例年2回実施されていた学外での実習が1回に減ったため、栄養士が実際に働く現場で学べる貴重な機会を有意義にしようと学生が考え取り組んだためだと思われる。

3.2. 予習・復習、準備、課題に費やした時間

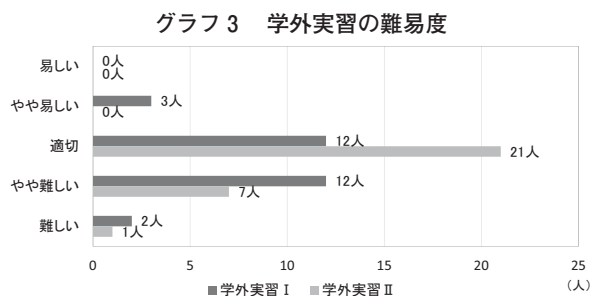
各学外実習に関して予習・復習、準備、課題のためにどの程度授業時間以外に費やしたかと尋ねたところ、学外実習Ⅰ・Ⅱ共に13名（44.8%）の学生が『5時間未満』と答え、次いで『5～10時間未満』と『10～15時間未満』がそれぞれ6名（20.7%）ずつとなった（グラフ2）。



学外実習Ⅰ・Ⅱ共に『5時間未満』と答えた学生が最も多かった理由として、学内で実習課題に取り組む時間を、学外実習Ⅰ・Ⅱの準備を行う科目である学外実習総合演習内においてそれぞれ2コマ（各3時間）と、学外実習Ⅰ・Ⅱの課題に取り組む時間を各5時間、計8時間ずつ設けており、これらの時間内で予習・復習等をすませってしまう学生が多く存在したためだと思われる。学外実習の課題は実習先によって内容が異なるため一概に望ましい時間を示すことは出来ないが、40時間の学外実習に対してこの結果は短すぎると思われる。また、学生によって予習・復習等に取り組む姿勢も異なっており、内容の浅い学生も散見された。今後は予習復習を高いレベルで行えるように学生への指導を見直していく必要がある。

3.3. 学外実習の難易度

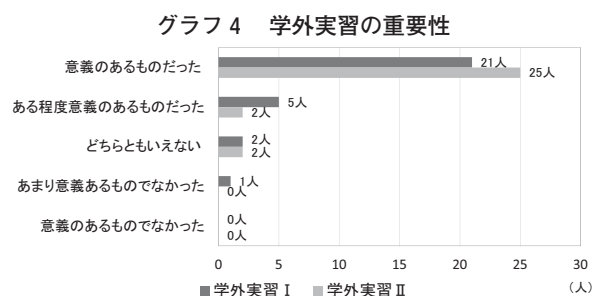
各学外実習の難易度について尋ねたところ、学外実習Ⅰに関しては『適切』、『やや難しい』と答えた学生がそれぞれ12名（41.4%）、学外実習Ⅱに関しては『適切』が21名（72.4%）と最も多く、『やや難しい』が7名（24.1%）という結果となった（グラフ3）



学外実習Ⅰに関しては『やや難しい』と答えた学生が多かったが、理由として学外実習を学内で行うことは初めてであり、5日間の実習期間に多くの内容を詰め込んだため、一部の学生には負担が大きかったと考えられた。令和3年度も学内での学外実習実施が予定されているが、実習内容の見直しや、タイムスケジュールの適正化が必要だと思われる。学外実習Ⅱに関しては『適切』と答えた学生が最も多かった。この理由として基本的に実習内容は実習先に一存しているが、実習終了後に長崎県内の栄養士・管理栄養士養成施設教員と実習先栄養士・管理栄養士の代表者との打ち合わせの場を毎年設けており、各施設での実習内容がある程度標準化されているためだと考えられた。

3.4. 学外実習の重要性

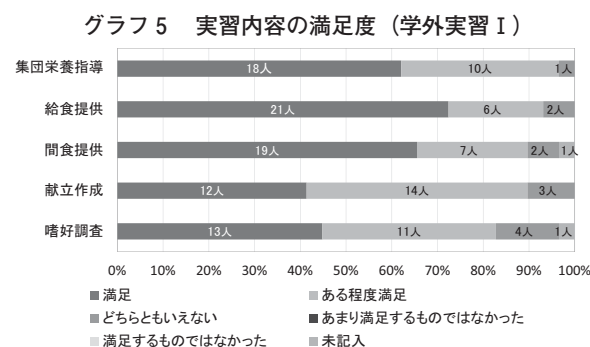
各学外実習が学生にとって意義あるものだったか尋ねたところ、『意義あるものだった』が学外実習Ⅰでは21名（72.4%）、学外実習Ⅱでは25名（86.2%）という結果となった（グラフ4）。



学外実習Ⅰ・Ⅱとも『意義あるものだった』と答えた学生が最も多い割合であったが、実際に栄養士・管理栄養士が働く現場で実習を行った学外実習Ⅱが13.8%も高い結果となった。学外実習Ⅱのアンケートの自由回答欄では、学外実習Ⅱでは短大で学べないことを多く学ぶことが出来たとの記述が多く見られた。実際の現場での学びは、教室での勉強とはまた違う発見や気づきが多く有意義であったと思われる。

3.5. 実習内容の満足度（学外実習Ⅰ）

今年度初めて学内で実施した学外実習Ⅰの各実習内容の満足度について尋ねたところ、集団栄養指導では『満足』が18名（62.1%）、『ある程度満足』が10名（34.5%）、給食提供では『満足』が21名（72.4%）、『ある程度満足』が6名（20.7%）、間食提供では『満足』が19名（65.5%）、『ある程度満足』が7名（24.1%）、献立作成では『満足』が12名（41.4%）、『ある程度満足』が14名（48.3%）、嗜好調査では『満足』が13名（44.8%）、『ある程度満足』が11名（37.9%）という結果であった（グラフ5）。

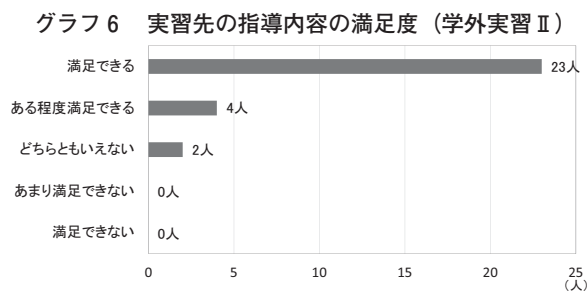


全体的に『満足』、『ある程度満足』が多く占める結果となったが、献立作成や嗜好調査の様な机

やパソコン上で行う実習の満足度が、集団栄養指導、給食提供、間食提供など調理や発表等実際に作業を行う実習より低い結果となった。学外実習先や就職先の栄養士・管理栄養士から本学に対しての要望事項の一つとして献立作成能力の向上があり、また、嗜好調査は重要な栄養士業務の一つであるため、指導効果と満足度が向上するように実習内容を改善していく必要がある。

3.6. 実習先の指導内容の満足度（学外実習Ⅱ）

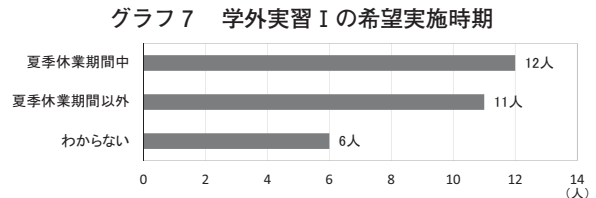
学外の保育園・認定こども園や病院等で実施した学外実習Ⅱの満足度について尋ねたところ、『満足』が23名（79.3%）、『ある程度満足』が4名（13.8%）と回答し、多くの学生が満足したと回答した。（グラフ6）。



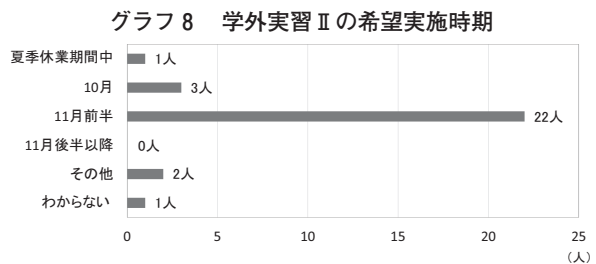
満足度が高い理由としては、学外実習でしか得られない体験や学びがあったためだと考えられた。例年の学外実習では学外実習Ⅰでは主に高齢者福祉施設を中心に実習を行い、学外実習Ⅱは学生の希望を配慮して病院、保育園・認定こども園、高齢者福祉施設で実習を行っている。今年度は新型コロナウイルス感染症の流行により、年度途中で多くの病院や高齢者福祉施設での学外実習が行えなくなったため、約6割の学生が希望の有無にかかわらず保育園・認定こども園での実習となった。このような状況下で急遽学外実習を受け入れていただいた保育園・認定こども園には感謝の念は堪えないが、希望の実習先に行けなかったと感じた学生もいたと思われる。令和3年度も今年度と同様の実習形態になることが予想されるため、学生の希望を出来るだけ叶えられるように実習先確保の努力をしていきたい。

3.7. 学外実習の希望実施時期

学内で学外実習Ⅰを実施する場合、どの時期に実施するのが良いかと尋ねたところ、『夏季休業期間中』が12名（41.4%）、『夏季休業期間以外』が11名（37.9%）という結果となった（グラフ7）。



『夏季休業期間以外』と答えた学生に具体的にどの時期がいいか答えてもらったところ、例年学外実習を行っている7月前半との意見が最も多かった。学外実習Ⅱの実施時期に関しては、例年学外実習Ⅱを実施している11月前半と答えた学生が22名（75.9%）と最も多い結果となった（グラフ8）。



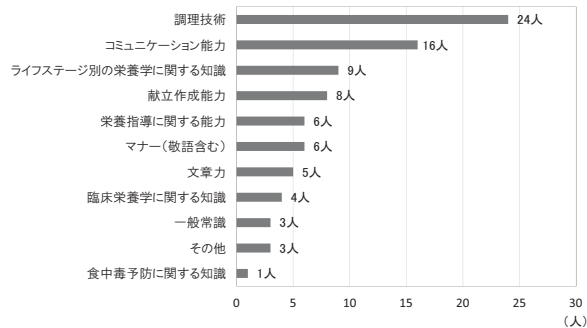
今年度の学外実習Ⅰは新型コロナウイルス感染症の流行の影響もあり、急遽9月上旬の夏季休業期間中に学内で実施したが、例年学外実習は7月上旬に実施している。学生が夏季休業期間中ではなく7月前半の実施を希望する気持ちは理解できるが、学内で学外実習を行う場合には栄養士コース教員が全員でつきっきりで行う必要があるため、1年生の通常授業を行いながらの7月前半の実施は難しいと思われる。

3.8. 実習前に修得しておくべき知識や能力

学外実習Ⅱ終了後に実習前に身に付けておけばよかった知識や能力について複数回答で尋ねたところ、多かった意見として調理技術が24名（82.8%）、コミュニケーション能力が16名（55.2%）、ライフステージ別の栄養学に関する

知識が9名（31.0%）、献立作成能力が8名（27.6%）という結果となった（グラフ9）。

グラフ9 実習前に修得しておくべき知識や能力
(複数回答)

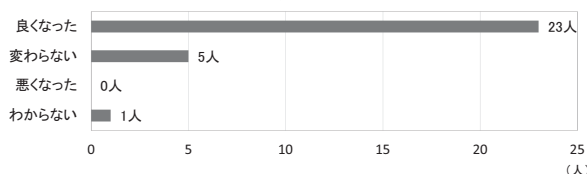


栄養士学外実習先や就職先の栄養士・管理栄養士からの要望事項として、調理技術や献立作成能力の向上の意見が良く見られるが、今回の調査結果もそれを裏付ける結果となった。これらに関してはこれまでも指摘されていたため様々な対策を行ってきたが、今後も学生の意見や能力を判断しながら対策を行っていききたい。また、半数以上の学生がコミュニケーション能力不足を感じている状況であった。コミュニケーション能力向上に関しては、学生に様々な体験をしてもらうことが重要であり、学外実習に関しては複数回の学外実習早期再開が望まれる。

3.9. 学外実習が栄養士のイメージに及ぼす影響

学外実習Ⅱ終了後に実習前と比較して栄養士に対するイメージがどのように変わったか尋ねたところ、『良くなった』が23名（79.3%）という結果となった（グラフ10）。

グラフ10 学外実習が栄養士のイメージに及ぼす影響



本学生活創造学科栄養士コースの専門就職率は全国平均と比較しても毎年高い値であるが、この理由の一つとして学外実習での体験があると思われる。学外実習Ⅱのアンケートの自由回答欄には、

「就職先を決定するまえに学外実習を行いたかったとの」意見が複数あった。例年は7月の早い時期に学外実習を行っておりこの経験を踏まえて就職を決める学生も多い。これらの理由より今後も7月に学外実習Ⅰを行わない場合は、学外実習Ⅱを夏季休業期間中等、早い時期に実施するのが望ましいと思われた。

4. 考 察

令和2年度は新型コロナウイルス感染症の流行のため、これまでの日常生活や仕事が一変したが、教育現場でも変化の多い一年となった。多くの大学でリモート環境での授業も多く行われたが、実習・実験の多い栄養士養成課程では全てをリモートで行うことも難しく、試行錯誤を繰り返す1年となった。

栄養士学外実習は病院や高齢者福祉施設等学外で実習を行うことが多いため、新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受けることとなった。4月16日の緊急事態宣言発表に伴い、4月後半から5月前半にかけて事前に実習をお願いしていた高齢者福祉施設や病院等の実習先から実習中止の願いがあり、学外実習スケジュールや内容の大幅な見直しを迫られた。最終的には学外実習Ⅰは学外施設での実施を断念し学内実施に変更、学外実習Ⅱは多くの実習先を当初の予定から変更しての実施となった。

学内で実施した学外実習Ⅰでは学生を4つのグループに分け、グループ毎に教員が各内容を指導する形で実施したが、学生の満足度は高い結果となった。また、同じグループで5日間各実習を行ったため、アンケートの自由回答欄ではチームワークの重要性を学ぶことが出来たとの意見が多く見られた。当初はグループ内で意見の対立等も散見されたが、学生間で話し合いを行い解決方法を見つけるなどの経験は学生にとって良い経験になったと思われ、グループワークの重要性を知る機会にもなった。この経験は普段の授業にも活かしていきたい。アンケートの自由回答欄には学外で実習を行いたかったとの意見もいくつか見られた。新型コロナウイルス感染症の流行が続く限り、以前

と同様の実習を行うことは難しいと思われるが、可能になれば年2回の学外実習を再開させたい。また、実習の内容に関しては詰め込み過ぎとの意見もあり、栄養士コース教員間で検討し改善していきたい。

学外実習Ⅱに関しては、実習中止の依頼があった病院や高齢者福祉施設の7施設13人分の新たな実習先を見つける作業を、緊急事態宣言が解除され、世間が落ち着きを取り戻した6月中旬以降に行った。今年は実習先の確保が最優先課題であったため、一部の学生の希望実習先と実際の実習先が一致しないこともあった。来年度も病院や高齢者福祉施設での実習は難しいと考えられるが、可能な限り学生の希望に沿った実習先確保を行っていきたい。また、学外実習実施が難しく断念する学校も多く存在する中、実際に学外で実習を行った結果、学生からは短大で学べない多くのことを学ぶことが出来たり、栄養士のイメージが改善したりしたとの意見が多く見られた。学外実習は栄養士の学びだけではなく、職業観や学生生活の満足度にも影響を及ぼしていることが改めて裏付けられた。

今年度は新型コロナウイルス感染症流行のため学内外で学外実習を実施したが、改めて学外実習が学生の学びや成長に大きな影響を与えていることを再認識する機会にもなった。感染の早期収束と学外実習の再開を願いつつも、新型コロナウイルス感染症流行後の実習の在り方も今後検討していきたい。

5. 謝 辞

今回、栄養士学外実習において学生を受け入れていただいた保育園・認定こども園、病院、高齢者福祉施設、救護施設、事業所の施設長、栄養士・管理栄養士、指導していただいた皆様に感謝申し上げます。

また新型コロナウイルス感染症の感染拡大が進む中、医療従事者や福祉従事者の皆様に、心から敬意を表するとともに、深く感謝を申し上げます。

6. 参考文献

- 1) 新型コロナウイルス感染症の発生に伴う医療関係職種等の各学校、養成所及び養成施設等の対応について（事務連絡）、文部科学省高等教育局・厚生労働省医政局他、（令和2年2月28日）、<https://www.mhlw.go.jp/content/000636144.pdf>